

夏合宿 B班

期日: 7/26 ~ 8/1

メンバー: 名取隊長, 村瀬コック長, 嶋カ,
西田カ(会計), それに私兵藤(記録)

☆ 7/24 ~ 7/25

先にツリーグ中の名取さんの他4名が24日の夜
行で幌延まで列車の旅。19:08に上野
を出て次の日の21:47までほとんど電
車に揺られ全く苦しい道のりであった。
北海道へはやほりフェリーがはいまう
だ。幌延では待合室に泊めさせてくれ
ず駅の軒下で駅寝(と言えらんだらうか)。

☆ 7月26日 幌延 → 稚内

豊富からサロヤツ原野を通過して抜舟
に至る道はダート + 迷路でわかりに

くかったが嶋さんの先導で無事通り抜けることができた。しかし抜海から稚内に向う間、海からの強い風のため私は先頭集団(村瀬、嶋、西田 他)の快走に振り残され、目付役の名取さんの影を後ろに見ながら油汗を流してペダルをこぐという屈辱的走行を強いられた(以後90%、このスタインが続いた)。稚内のキャンプ場は夜景がよく、水も妙に冷たくなくて仲々お所であった。夕方後、この夜のテントの割り当てのジャンクをする。この班は三角テント(4人)+ドームテント(1人+荷物)ということで1人寝の安息を得んが為毎夜火花を散らすジャンク大会が開かれた。ちなみにこのドームテントを「マ○○キテント」と呼ぶのが班団気をこの班は持ち合わせてはいなかった。(当然テスヨ)

☆ 7月27日 越後の利尻登頂

フェリーで島に渡ってテントを張った後、利尻に登り始め

左記であるが「いつ下り始めようかと思ってたんだ〜」
という名取さんの言葉通り、何となく登頂してしました。

裏や海を眼下にしながら「ニニ登へのほうちだけだ
ろ」と、その時は思っていた。

☆7月28日 礼文島

カラスガテントの上にとまて鳴き出したため目が覚
めて外へ出るとおっほり出してあつた米袋がカラスに喰
われていた。ニニのカラスは今手が悪い。礼文島をあら
ニち走り回った後久能湖畔でキャンプ。ハバーグを作ったが、
ニの夜から班のモットーに「richな食事」という項が設け
られた。湖畔の月が殊しく光っていた(特に意味ナシ)。

☆7月29日 宗谷岬へ

能内に着いて、昼食後宗谷岬へひた走る。着いた
宗谷岬はやほり北の果てという感じで、「お流氷溶
けて〜よ」という歌もそのムードを盛り上げていた。巨人が
拵逆転負けをくらった。負けで元々の西武ファンは気楽
であると思った。

☆ 7月30日 宗谷岬 → 浜頓別

左側にオホーツクの灰色の海を眺めつつ走行。
班に利尻軌文 宗谷岬を通過した虚無感が涼よい
始めたが 飲酒運転で気分を盛り上げることにする。

☆ 7月31日 紋別へ

前日から二の日はかなり走るということはおぼがっていたが
いざ走り始めるとやはり私は先頭集団には残され、西
田さんが女で走ることも忘れて「まだ走らんでいいか〜」と
いう弱気^カ力無し宣言を幾度かなく発してしまつた。それ
でも紋別まで走り、夕食。紋別空港のキャンプ場へトイレ
に行ったのだが、これが紋別から20kmも離れていると知ら
ず、暗い夜道心細く走った記憶がある。

☆ 8月1日 網走へ

前日の疲労もな^く 網走まで走る。浜佐呂間の手前
でA班と出会う。Tシャツからほみ出しそう存 ^頭 ^の
腹が目についた。 S氏

☆ 8月2日 美幌峠 そして事故

この日は大晴天で美幌峠からの眺めも最高で
くろいでおった。このとき屈斜路湖まで無事下れば、
この日は万に歳だったのだが……。それはダウンヒルも終
ったゆるやかな直線の下りでの出来事であった。前を
走る名取さんの後輪は一瞬私の前輪が接触
し、バランスを崩したと思った次の瞬間、グッ！私は
道路幅 40% ほどあると思われる茨木に左折、
転落していったのであった。3~4m 走って横転した
私はしばらく涼に状態、何がの存いのを知り、大
丈夫であるよとひきつた笑いを浮かべるのがせ
い一杯であった。道なき場所に道標を作ってしまった。

☆ 8月3日 摩周湖 そして川湯

摩周湖の幽幻存眺めの後、川湯へ。川湯の
キャンプ場は全くの観光地で大混雑の大騒音で
あった。国立、甲子園出場ということでこの夜のビ
ルは嶋さんのおごり。

☆8月4日 浜小清水へ

徐々にしのびよる沈滞ムードの中、この日は下りのみの54Km走っただけでキャンプ。午後は浜小清水の原生花園の海岸の片隅で、童心に還って砂遊び。食スタイルに投中かけらゆる観光客の白い目も気にせず、結構楽しいひと時であった。

☆8月5日 斜里 へして宇登呂への雨中ラン
斜里をすぎたパラつき始めた雨が、程なく本降りになり、宇登呂への道はトラックも多ハニシから最悪の道呈であった。宇登呂に着いたときにはグチャグチャのゼチヨ子レで知床川にかけこんで、ホッと一息、又々のNOキャンプ。

☆8月6日 雨、止まず

この日は一日中雨が降っていたため、ユースの体育館存ぞでウツっていた。しかし同宿した女子大生に対する ~~雑~~ Nさんの豹変ぶり、Mさんの負いぶり存ぞ伸々興味深かった。

☆ 8月7日 知床旅状

この日は宇登呂川奥深く、知床半島を連れていった。出発するとお目目の前はダート。上ったり下ったりしてゆくうちにあたり一面霧の海、前を走る人の姿も少ない。存おも大クミツキにエサをとりたりしてから知床五橋に着き、その二軒目の宿に泊る。と、ツレポ洞に落ちた。この日は終り。しかしこの二軒目は結構印象深い宿でありました。

☆ 8月8日 尾岱沼へ

このあたりから風景も単純になる、乙まで記憶もサグカでなくなってきたため、関係ない事なども入ってきたが、この日は尾岱の試合ということで、朝から気にかけていた嶋エムは得意のダッシュ(ダッシュ)に力をつけて、この試合は嶋エムと名取エムの間でモッパウ取りかめまわっていたが、大体において(特に質)嶋エムの方がまわっていたようにも思われる。ラジオに聴くだが、順当に負け。そのあまりをくたしたのが、

嶋さんのサイドバッグが大破した。

8月9日 霧多布へ

何と云うか、この日も自転車にのって走った誤で霧多布までいったのです。霧多布は本当に利だらけで、翌朝までキャンプ場の囲りが海だなんて知りませんでした。最後のキャンプというところでゼーゾーに十勝サインに花火大会に少々退屈な出し物など、盛りだくさんのうちにその幕を閉じた。

本当は次の日も走ったのですが、実質的にこの合宿の総括はこの霧の中で終ったとしておきます。打合せも楽しく色々お話を聞かれました。このおと今年のY氏の様に考察など書こうと思いましたが、~~11~~ 11 PMを見る時間が近づいてきたので、いさぎよくこの辺でお別れしたいと思います。

どうも御迷惑さま

おあとがよろしいようで……